

議事要旨(2) 無形資産に係る会計基準の検討

冒頭、新井副委員長（専門委員長）より、無形資産プロジェクトの今後の進め方について審議を行いたい旨の説明が行われ、続いて中川研究員より、説明資料[審議事項(2)]に基づいて具体的な説明が行われた。委員等からの主な意見等は以下のとおりである。

- ・提示された 2 つの論点に絞り検討を行うことに賛成する。但し、個別論点の深掘りであっても、全体の整合性を常に意識してプロジェクトを進めてもらいたい。また、IFRS や米国基準における実務の調査を行うと記載があるので、こうした検討を行いつつも日本の基準がどうあるべきかを常に念頭において進めていく必要があると考える。
- ・2 つの論点を中心に進めながら、状況に応じて幅広く包括的な考え方を整理するという進め方に同意する。また、実務上のニーズとコストを比較考慮するという点について、説明責任の観点からも重要だと考えるが、コストとベネフィットを比較しての評価について具体的にどのような形のもを想定しているのか伺いたい。
- ・無形資産に関する概念については基準開発の上で持っていなければならないものだと考えており、概念を横におきつつ、個別の論点を検討してもらいたい。また、実務においては、提示された 2 つ以外にも論点は存在し、そうした論点に対応するための拠り所になるものが必要ではないかと考えている。社内開発費の費用計上の是非の議論を今後進める上でも、概念は役立つものであると考える。
- ・結論として提示された 2 つの論点に絞ることに賛成である。早急に無形資産の包括的な会計基準の開発に着手することは、実務の中でリスクが生じる可能性があると考えており、更なる検討が必要である。また仕掛中の研究開発に関して、医薬品業界を他の業界と同様に扱うことができるか等についても検討する必要があると考えており、最終的な着地点としては業種別の指針の開発も考えられるのではないかと。
- ・提示されたプロジェクトの進め方に基づくと、終了目標時期はどのように考えているのか伺いたい。

これらの委員等からの意見や質問に対して、事務局より次のようなコメントがあった。

- ・今後、調査を行い対応の方向性を検討していくが、プロジェクトの終了時期は調査結果に基づく対応の方向性次第と考えているので、現時点では終了予定時期については申し

上げられない。コスト・ベネフィットを比較しての評価に関しては、IASB 等での方法も参考にして、今までの ASBJ の対応も踏まえて整理して検討していきたいと考えている。

最後に、新井副委員長から、本プロジェクトの今後の進め方についてほぼ了解を頂いた
ので、2つの論点について2か月間程度で調査を行い、その上で、コスト・ベネフィットの
比較評価、業種の特長も斟酌しつつ検討を進め、12月又は1月に再度検討していただき
たいと考えている旨の説明があった。

以上